



県南地方の 農林業

清らかな源流を生かし
次代につなぐ県南の農林業



福島県県南農林事務所



1 県南地方の概要

(1)地勢

県南地方は、首都圏から東北圏への入口に当たる福島県の最南端に位置しています。白河市をはじめとする1市4町4村からなり、その面積は、1,233.07km²(西白河地方612.12km²、東白川地方620.95km²)で、県土の8.9%を占めています。

東部に阿武隈山系、西部に奥羽山脈、南部に八溝山系があり西白河地方を流れる阿武隈川と東白川地方を流れる久慈川の流域に沿って平野部が開けています。

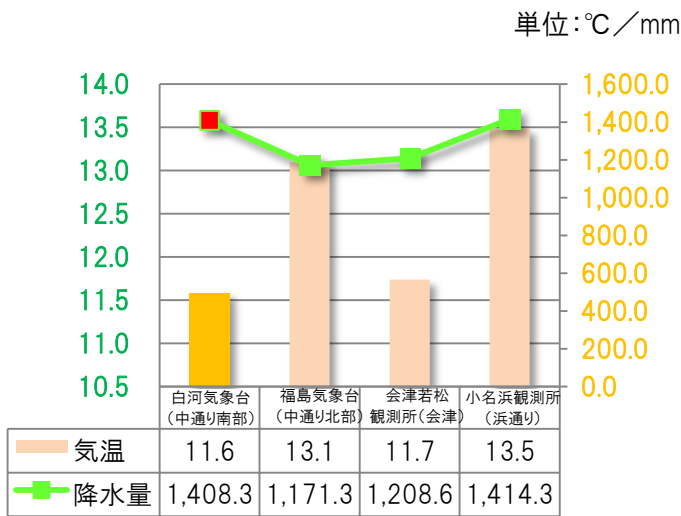
また、阿武隈川及び久慈川の源流域であるため白河合同庁舎の標高は363mあります。



(2)気候

昭和55年～平成28年の期間における県南地方の気候は、年平均降水量が白河気象台の観測では1,408.3mmとなっており、福島気象台の1,171.3mm、会津若松測候所の1,208.6mmと比べて降水量の多い地域となっています。

また、年平均気温は白河気象台で11.6℃と、福島気象台の13.1℃より低く、若松測候所11.7℃と同程度の気温となっています。

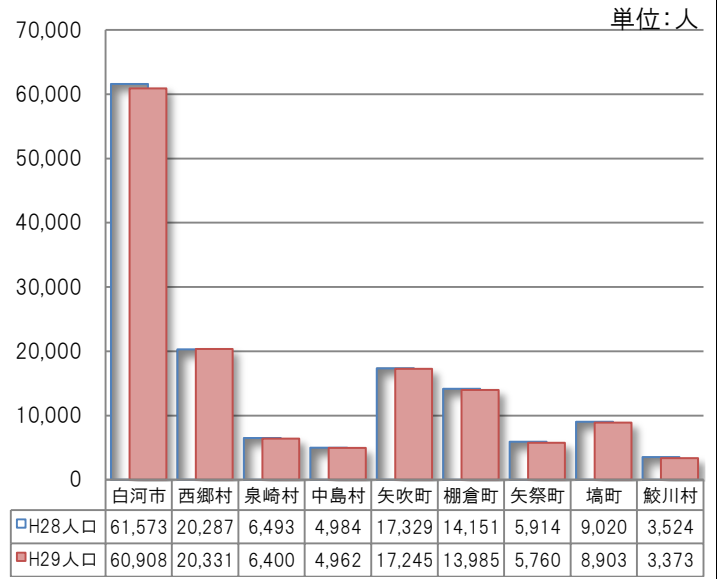


※気象庁統計

(3)人口

管内の人口は、平成29年4月1日現在、141,867人(50,797世帯)で、県人口の7.5%(世帯数で6.8%)を占めています。その内訳を見ると、西白河地方が109,846人、東白川地方が、32,021人となっています。

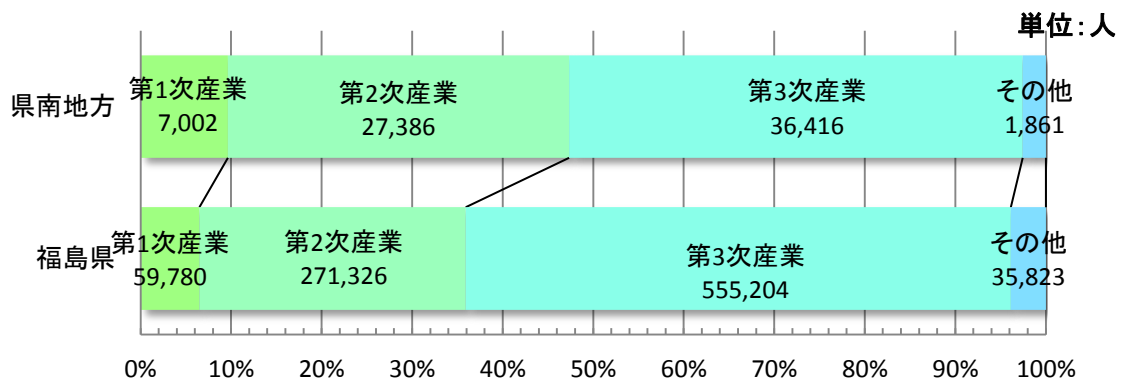
また、平成28年4月1日現在の人口と比較すると1,408人の減で、減少率は1.0%となっています。



※福島県の推計人口(県HP)(H29.4.1現在)

(4)就業構造

福島県県南地方においては、15歳以上の就業者72,665人のうち9.6%を占める7,002人が第1次産業に就業しています。福島県全体では、第1次産業就業者は6.4%を占める59,780人であり、県南地方は県全体よりもやや高い就業率となっています。



2 東日本大震災の被災及び復旧の概要

(1)地震の概要

平成23年3月11日、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生しました。

市町村別最大震度は、白河市で県内最大規模の震度6強、西郷村・中島村・矢吹町・棚倉町で震度6弱、泉崎村・矢祭町で震度5強、埴町・鮫川村で震度5弱が観測されました。

(2)被害の概要

本地震により発生した津波や建物倒壊等により県内の死者・行方不明者は3,973名、住宅の全半壊は95,860棟と甚大な被害を受けました。

うち、県南地方においては、白河市葉ノ木平地区で発生した地滑りをはじめ、地震による土砂崩れ等によって死者17名(震災関連死を含む)、住宅の全半壊4,799棟の被害が発生しました。また、各種ライフラインや農林業施設へも多大な被害が発生し、農地、農業用施設で8,004百万円、林道や林業関連施設で152百万円の被害となりました。

※県南農林事務所調べ

(3)施設の復旧状況

農林業関連の災害復旧状況は、平成28年度までに農地・農業用施設・集落排水施設で320箇所、治山・林道施設で44箇所の災害復旧工事を完了しています。

(4)農林地除染及び吸収抑制対策の実施状況

管内7市町村で除染作業をすすめてきましたが、平成29年7月に全て終了しました。

泉崎村、矢祭町、鮫川村の米は、米の全量全袋検査において、放射性セシウムが検出されなかったことから、吸収抑制対策の補助対象外となりました。同様に、矢吹町の大豆では、モニタリング検査において放射性セシウムが不検出であったことから、吸収抑制対策の補助対象外となりました。

(5)放射性物質モニタリング検査

平成28年度は、合計1,519点(農林水産物食用1,338点、飼料作物等食用外181点)の検査を実施し、基準値を超えたものはありませんでした。

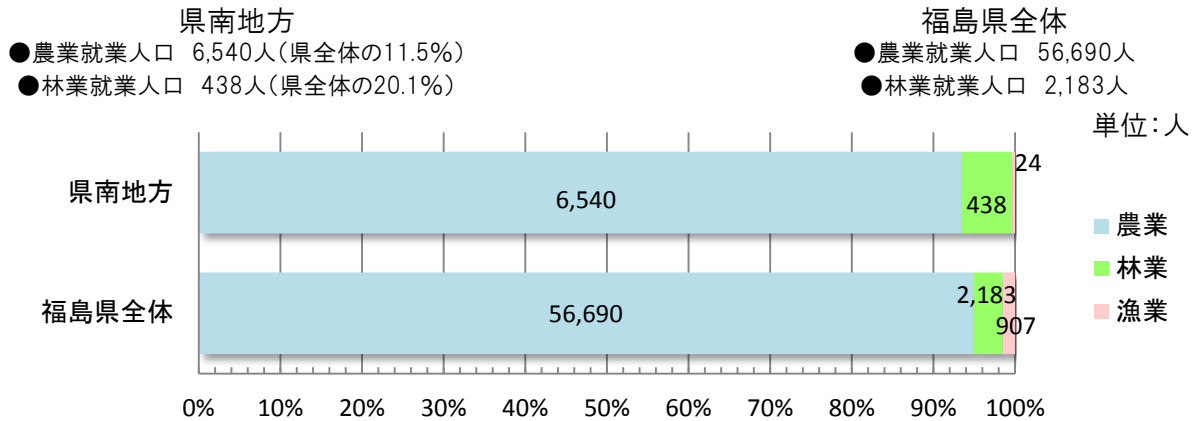
(6)米の全量全袋検査

平成28年産米については、28箇所の検査場で32台の検査機器により145万点を超える検査を実施し、基準値を超えたものはありませんでした。

3 農業・農村・森林林業の概況

始めに

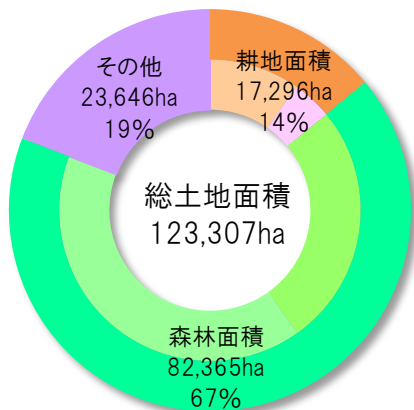
(1)第1次産業就業構造



※H27国勢調査

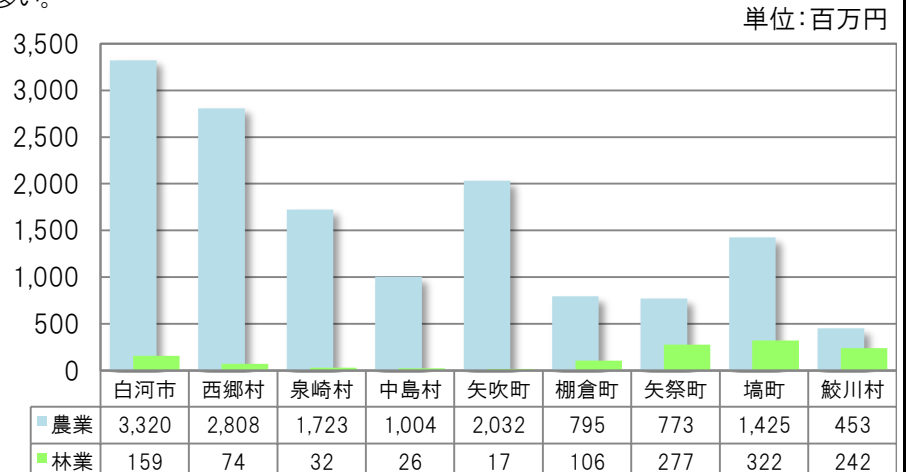
(2)土地利用状況

● 県南地方の土地面積のうち14%が耕地、67%が森林として活用されています。



(3)市町村内生産額(農業・林業)

● 平成26年度において、農業の生産額は白河市が最も多く、林業の生産額は埴町が最も多い。



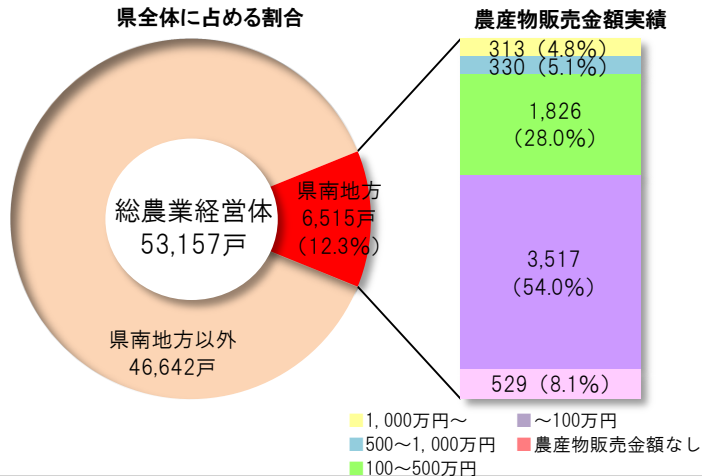
※第63次福島農林水産統計年報、平成28年福島県森林・林業統計書

※福島県統計課「福島県市町村民経済計算の概要(平成26(2014)年度版)」から作成

(1) 農業経営体数

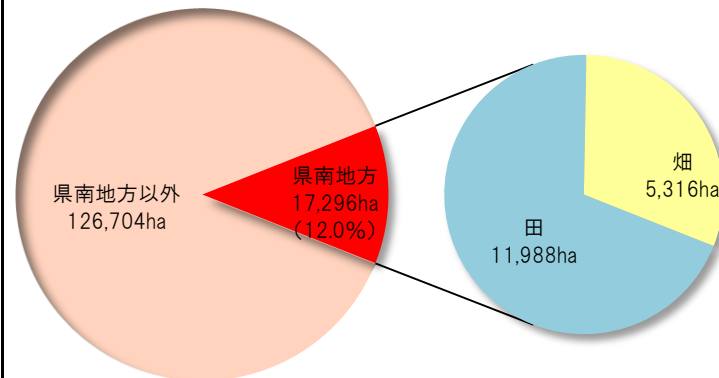
- 平成28年度の農業経営体数は6,515戸(県全体の12.3%)
- 販売実績が100万円以上の農家は37.9%

単位: 戸



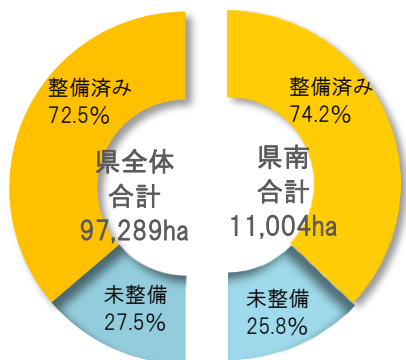
(2) 耕地面積

- 平成28年度の耕地面積は17,296ha(県全体の12.0%)
- うち田面積は11,988ha、畑面積は5,316ha(ただし四捨五入の関係で耕地面積とは一致しない。)



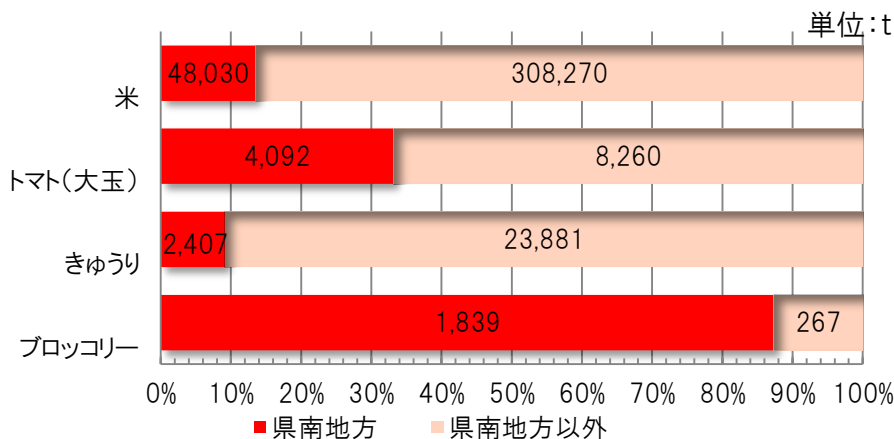
(3) ほ場整備の状況

- 平成28年度までのほ場整備済み面積は8,166.2haで全体の74.2%。
- 福島県全体の整備率とほぼ同率。



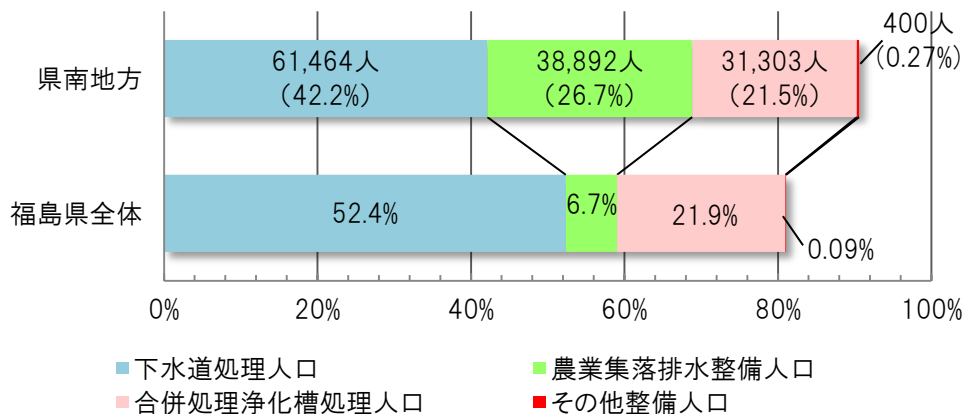
(4) 米の生産量及び園芸作物出荷量

- 平成28年度における県全体に占める割合は米13.5%、トマト(大玉)33.1%、きゅうり9.2%、ブロッコリー87.3%



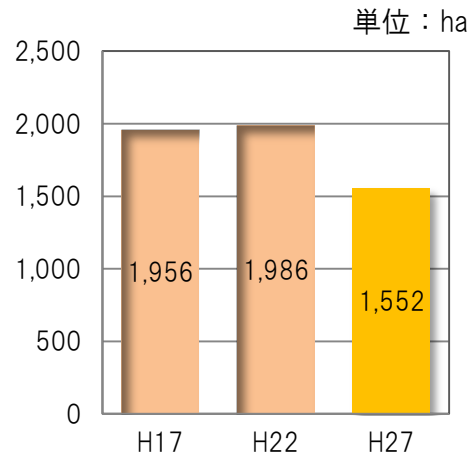
(5) 農業集落排水処理施設の整備状況

- 平成27年度の汚水処理人口普及率は90.6%で県全体(81.1%)を上回る
- 農業集落排水人口普及率は26.7%で県全体(6.7%)を大きく上回る



(6) 耕作放棄地面積

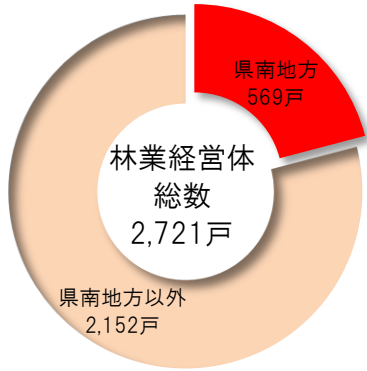
- 平成27年度の耕作放棄地面積は1,552ha
- 平成22年度の耕作放棄地面積よりも減少



林業データ

(1) 林業経営体数

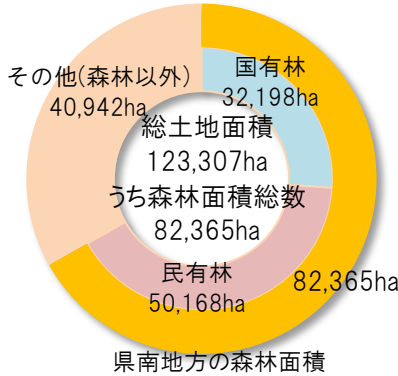
● 林業経営体数は569戸(県全体の20.9%)



※平成28年 福島県森林・林業統計書

(2) 森林面積

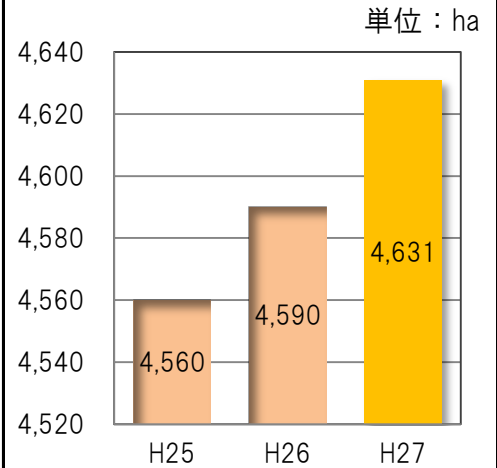
- 県南地方の森林面積は82,365ha
- 総土地面積に占める割合は県全体の70.8%に対し、県南地方で66.8%(西白河地方が54.8%、東白川地方が78.6%)
- 国有林は32,198ha、民有林は50,168ha



※平成28年 福島県森林・林業統計書

(3) 保安林面積の推移

- 平成27年度の保安林面積は4,631ha
- 毎年計画的に治山事業を実施している

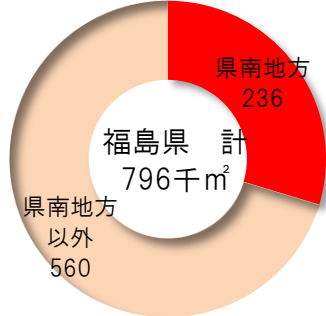


※平成28年 福島県森林・林業統計書

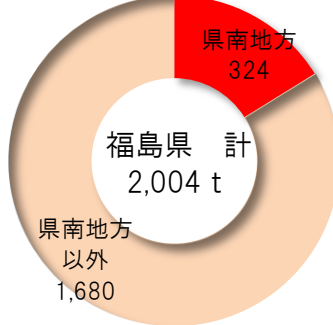
(4) 林産物の生産状況

- 平成27年度の県に占める割合は、素材生産量29.7%、生しいたけ生産量16.2%、木炭生産量55.7%
- 生しいたけ生産量及び木炭生産量は震災以降大きく減少したが、素材生産量は震災前と比べて増加している。

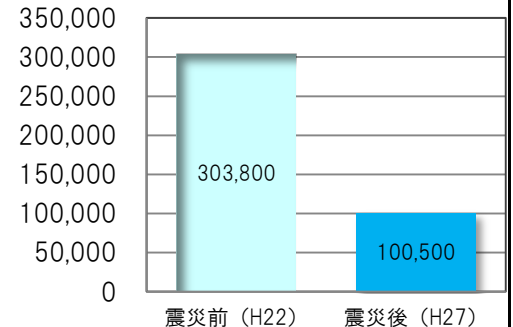
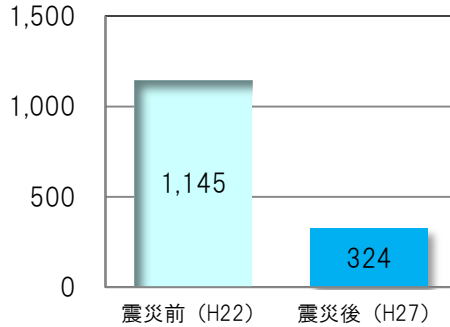
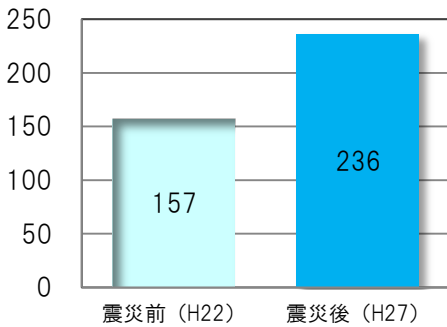
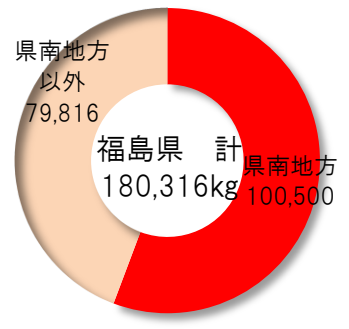
素材生産量(単位:千m³)



生しいたけ生産量(単位:t)



木炭生産量(単位:kg)



※平成28年 福島県森林・林業統計書、木材需給と木材工業の現状

(5) 林道密度

- 平成27年度末の管内の林道延長は383,678mで、林道密度は7.65m/ha
- 西白河地方の林道密度は3.87m/ha、東白川地方は10.84m/ha。東白川地方は県全体と比べて高い林道密度となっている。

	民有林面積(ha)	林道延長(m)	林道密度(m/ha)
福島県全体	566,808	4,086,928	7.21
県南地方	50,168	383,679	7.65

	民有林面積(ha)	林道延長(m)	林道密度(m/ha)
西白河地方	22,953	88,748	3.87
白河市	12,386	51,737	4.18
西郷村	8,000	31,591	3.95
泉崎村	1,123	5,420	4.83
中島村	322		
矢吹町	1,122		

	民有林面積(ha)	林道延長(m)	林道密度(m/ha)
東白川地方	27,215	294,931	10.84
棚倉町	6,374	50,718	7.96
矢祭町	6,382	97,390	15.26
埴町	8,379	81,760	9.76
鮫川村	6,080	65,063	10.70

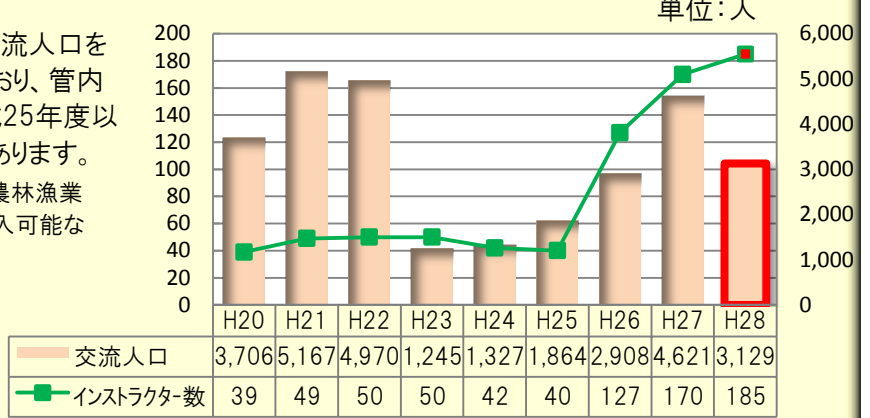
4 県南地方での取組

◆都市農村交流

県南農林事務所では東日本大震災で減少した交流人口を取り戻すため積極的な都市農村交流に取り組んでおり、管内のグリーン・ツーリズムインストラクター(※)数は平成25年度以降毎年増加しているほか、交流人口も回復傾向にあります。

※交流・観光などで訪れる都市住民や地域住民に対し、農林漁業等の体験に関する指導を行っており、基本的に随時受入可能な個人・団体

県南地方交流人口とインストラクター数



◆県南地方でのふくしま県GAP(FGAP)の取組み

福島県では、GAP(農業生産工程管理)認証取得日本一を目指すこととして、5月15日に内堀知事とJA福島中央会の大橋会長により、「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」を行いました。

宣言には、農業者の所得向上や農作業事故ゼロ、更には風評払拭に向け、震災と原発事故で傷ついた県内生産者のプライドをGAP認証取得により取り戻すとともに、震災以降の国内外からの応援に対する県民の感謝の気持ちを伝えたいという強い思いが込められています。

そのような中、県南地方では、7月と9月にGAP(FGAP)説明会を開催するなど、推進に向けた学習機会を設けています。いずれの説明会においても、生産者や農業協同組合関係者をはじめ、市町村などの関係者100名以上の出席があり、関心の高さがうかがえました。



GAP研修会現地説明の様子

◆「田んぼの学校」の取組み

県では「ふくしまの農育」事業の一環として、子供たちの学びの場として農村地域を活用し、農業と食、命の大切さを学ぶことを目的として「田んぼの学校」に取り組んでいます。

平成29年度は、塙町立塙小学校5年生を対象に、地元農家の方々と連携しながら、うるち米ともち米の栽培に取り組みました。

5月の田植えに始まり、10月の稲刈り・脱穀まで、地元の方から作業方法や昔の道具の使い方を学びながら、農作業の苦労や収穫の喜びを学びました。夏の天候不順の影響が心配されましたが、10月には無事収穫できました。

子供たちからは「田んぼにはいろいろな生き物がいた。」「これからは米を残さず食べたい。」などの感想が聞かれました。福島の将来を担う子どもたちの心に農業を通じて食と命の大切さが伝わったと考えています。



稲刈りの様子

◆林業現場見学会

林業分野への新規就業者の確保に向け、10月に高校生を対象とした林業現場見学会を開催し、管内の高等学校の生徒総勢80名が参加しました。

高性能林業機械による伐採体験をはじめ、製材工場やバイオマス燃料を生産するチップ工場を見学することで、森林の手入れの重要性和「仕事」としての林業のあり方を学びました。

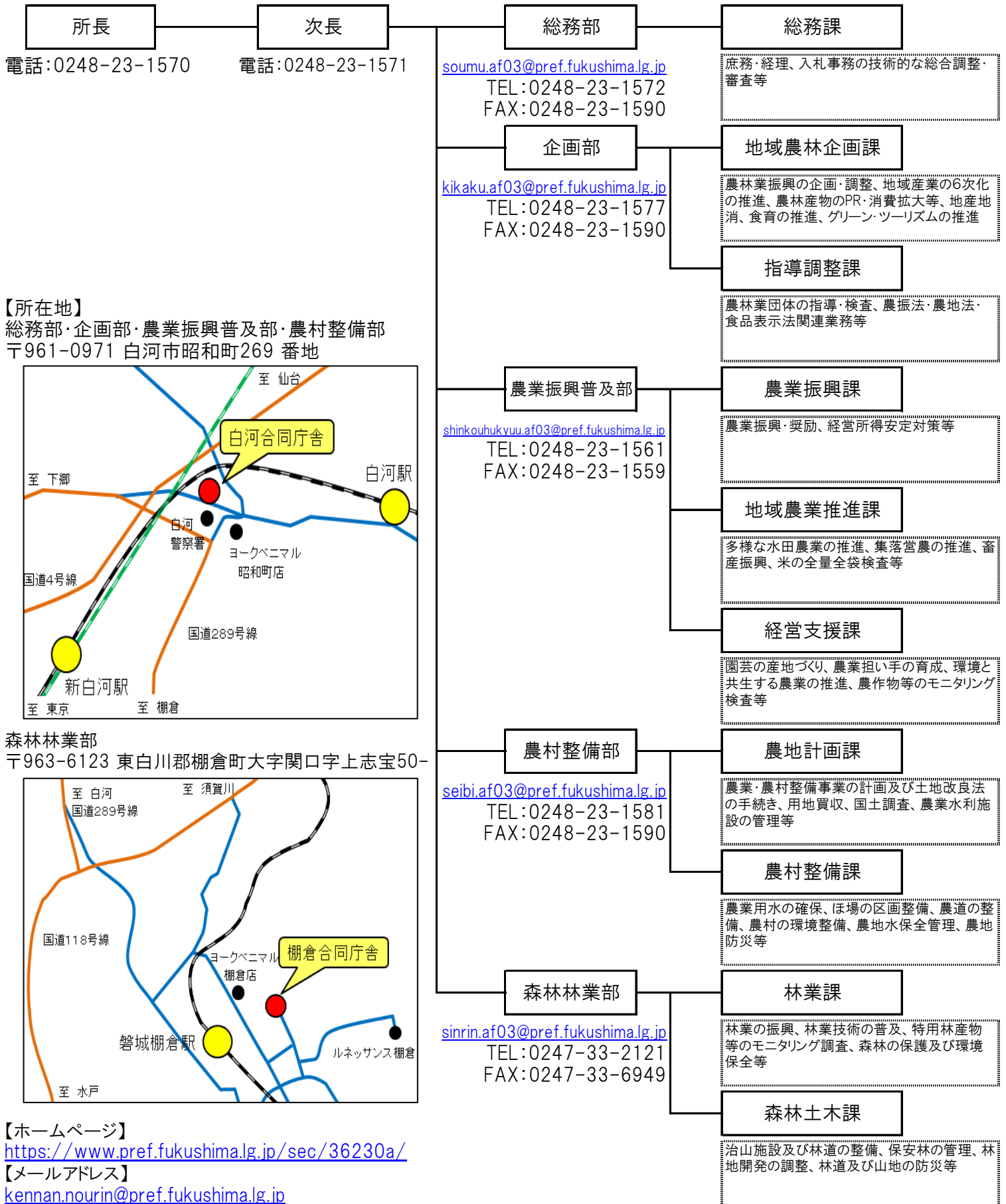
参加者からは「インターンシップへつなげる良い機会となった。」「林業を就職先の一つとして考えたい。」などの感想をいただきました。

若者の林業への就業に繋がるよう、今後も継続して取り組んでいきます。

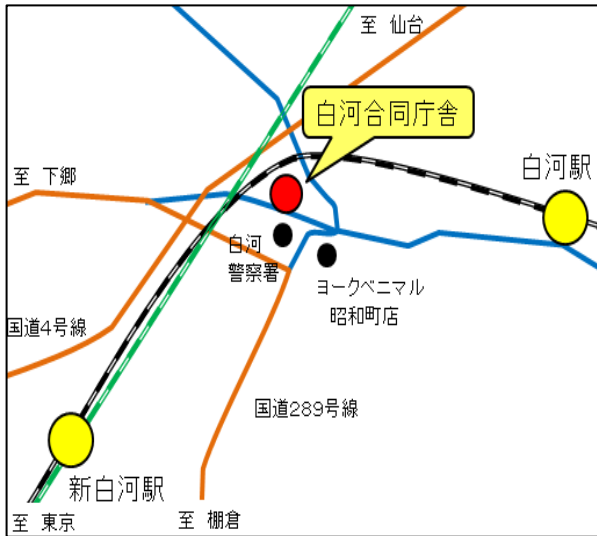


見学会の様子

県南農林事務所組織体制図



【所在地】
総務部・企画部・農業振興普及部・農村整備部
〒961-0971 白河市昭和町269 番地



森林林業部
〒963-6123 東白川郡棚倉町大字関口上志宝50-



【ホームページ】
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36230a/>
【メールアドレス】
kennan.nourin@pref.fukushima.lg.jp

【編集発行】
福島県県南農林事務所
企画部 地域農林企画課
電話:0248-23-1577 FAX:0248-23-1590
〒961-0971
福島県白河市昭和町269番地